



令和6年度国立市市民表彰 社会福祉功労



いま自分の目の前にいる人が “必要とする支援を” 保護司という仕事



坪坂 聖子氏

平成25年に国立分区の保護司を委嘱されて以来、犯罪者の更生・犯罪の予防・青少年健全育成及びこれらの啓発活動に尽力し、地域社会の浄化や地域福祉の増進に貢献されています。一人でも多くの方が更生することを願って、日々活動をしています。

保護司について教えてください

地域社会において、犯罪や非行をした人たちの更生を支援する活動や、犯罪や非行を未然に防ぐ活動を、地域の一員として行っています。法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員になります。報酬はなくボランティアで活動します。

保護司についたきっかけを教えてください

学生時代、どの学校、学級にも様々な人がいましたが、問題を抱えた生徒を他の生徒が支え、更にその生徒を周囲が支えるということを経験しました。支え合うことの尊さを感じた最初の経験です。

時が流れ、社会生活を営む中で先輩保護司からお声がけをいただき、今の自分にできることがあるなと思う、お引き受けしました。

活動している中で意識している事を教えてください

行っていることは特別なことではなく、ただ単に、いま自分の目の前にいる人が必要とする支援を、自分のできる範囲でやらせていただいているだけだと思っています。支援を必要とする人と支援をする側に特別な違いはな

く、学生時代の同級生に対するように、隣り合う人として接したいと考えています。

加えて、殊に少年に対しては、社会を構成する大人としての責任を果たしたいと考えています。

活動を通して印象に残っている事を教えてください

以前に保護観察を担当した少女が、期間が終わる頃、「私、大人になったら保護司になる」と言ってくれたことがありました。少しずつではありますが、これまでのコミュニケーションから自分の思いが伝わった瞬間で、非常に嬉しく思いました。

犯罪や非行の背景には何かしらの生きづらさがあり、未成年の場合、環境が与える影響が大きいと感じます。その少女は、家庭的に恵まれない中で、仲間と共に行き過ぎた行動に走った経緯がありました。大人は信用できないという言動は、大人を信じた心心の裏返しでもあったと思います。

その後、接触を繰り返すうちに少しずつ心を開いてくれるようになりました。彼女のためにも信用できる大人でありたいと思っています。

今後の保護司について教えてください

保護司は報道などでも年々減

少傾向と報じられ、現在社会問題になっていきます。その理由の一つに、近年の社会構造の変化による女性の就業者数増加と高齢者の労働参加率上昇が挙げられます。保護司にも同様の傾向が見られることから、有職を前提とした持続可能な活動の在り方や環境整備を模索していく必要があると考えます。

最後に一言お願いします

保護司は大変なこともありませんが、目の前の方と向き合い、自分のできることをできる範囲で行うことで、何か気づきに繋がりと、支援を必要とする人々の更生の一助になれば幸いです。



▲『令和6年11月4日市民表彰式典』
表彰状授与の様子